

学びのR

No. 4 2 (令和3年3月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

埼玉県マスコット
「ハト」さんたち



*** 「指導と評価の一体化」で授業改善⑮ *** ～ 「体育科・保健体育科」編～

* 「指導と評価の一体化」の視点から、体育科、保健体育科の「学習評価の進め方」について解説します。

学習評価の改善の基本的な方向性

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、右に示す基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとするのが重要です。

- ① **児童生徒の学習改善**につながるものにしていくこと
- ② **教師の指導改善**につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは**見直していく**こと

※参考：「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

学習評価の進め方

学習評価は、以下のように進めることが考えられます。※**中学校保健体育科**を例にします。

1 単元の目標を作成する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえる。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。
- 三つの資質・能力について、「何ができるようになるか」という生徒が変容した姿を示す。
- 三つの資質・能力それぞれを箇条書きとし、語尾は「～することができるようにする」とする。

単元を通して目指す児童生徒の姿(単元のゴールイメージ)

2 単元の評価規準を作成する

- 学習指導要領解説の〈例示〉の文末を変換する。※**波線の下線部分は、保健分野のみ該当。**

・「**知識・技能**」については、「**知識**」と「**技能**」に分けて作成する。
 「**知識**」…「～について、①言ったり書き出したりしている。②学習した具体例を挙げている。③**理解したことを言ったり書いたりしている。**」
 「**技能**」…「①～ができる②～(行い方・対処)について、**理解していることを言ったり書いたりしているとともに、(～)ができる。**」

・「**思考・判断・表現**」については、「**思考・判断**」と「**表現**」に分けて作成する。
 「**思考・判断**」…「～している。」 例：見付けている。**発見している。選んでいる。選択している。**
 「**表現**」…「～している。」 例：伝えている。**伝え合っている。**

・「**主体的に学習に取り組む態度**」については、意思や意欲を育てるという『**情意面**』の例示に対応して作成する。『**健康・安全**』に関する例示については、実践することが求められていることに留意して作成する。※保健分野については、「改善等通知*」における「**評価の観点及びその趣旨**」に示された内容を踏まえて作成する。

*「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」平成31年3月29日初等中等教育局長通知
 『**情意面**』…「～しようとしている。」 例：「①**取り組もう**②**守ろう**③**参加しよう**④**認めよう**⑤**援助しよう**⑥**教え合おう**⑦**貢献しよう**⑧**大切にしよう**」としている。
 『**健康・安全**』…「**健康・安全に留意している。**」「**健康・安全を確保している。**」

小学校については、内容や表現が若干違うところがあります。例えば、『**情意面**』…「**励まし合おう**としている。」「**健康・安全**」…「**安全に気を付けている。**」「**安全を確かめている。**」など

3 「指導と評価の計画」を作成する

- 1・2を踏まえ、評価場面(いつ・どの場面)や評価方法(観察・学習カード)等を計画する。
- 指導計画の下に評価の計画を重ね合わせる。
- 1時間の「学習評価の観点」は、原則一つ(本時のねらい、指導内容、学習過程において、関連が深い場合は二つまで可)とし、適切に評価できるようにする。(評価するに当たり無理のない計画)

4 授業を行う

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、**生徒の学習改善**や**教師の指導改善**につなげる。
- 「ねらい」に正対した「振り返りとまとめ」を行い、次時につなげていく評価とする。

5 観点ごとに総括する

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A, B, C)を行う。
- 総括の方法は、あらかじめ決めておく。例：「A, B, Cの数を基にする」「A, B, Cを数値に置き換える」

指導と評価の一体化に向けた観点別学習状況の評価の活用

指導場面に対して評価の機会を検討し設定することが重要！（単元の終末にまとめて行うものではない）

単元途中の観点別学習状況の評価は・・・

児童生徒一人一人の学習状況を明確にし、**児童生徒の学習改善**につなげるもの

教師の指導の成果や課題を明らかにするもの

評価した結果を具体的な言葉かけなどにより**児童生徒に返して学習の改善を促す**

「**努力を要する**」状況（C）の児童生徒に対して**手立てを講じる**。

「**十分満足できる**」状況（A）の児童生徒の把握にも努め、**個別の課題を与える**。

評価（児童生徒の状況）を踏まえて、その後の教師の指導の手立てを修正（工夫）する
教師の指導改善に生かす

ある児童生徒について、単元の前半に評価の機会を設定した項目がBまたはCであったものを、**単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが重要**。（評価後の指導の継続と再評価の重要性）



指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、**単元の途中や終盤等において、指導方針の修正を図るうえで極めて重要**。

評価の実際

事例では、詳細な記載になっていますが、「おおむね満足できる」状況（B）を基準として実現状況を見取ることが大事ですね。

効果的に評価するために、評価規準に対する**児童生徒の実現状況の判断の目安とその具体例**を作成することが考えられます。以下に中学校の体育分野及び保健分野のそれぞれの事例を紹介します。

「中学校保健体育科（体育分野）器械運動（マット運動）第1学年」における「技能」の評価の例 ※「開脚前転」の例
それぞれの技をよりよく行うことができたかを効果的に評価するために、A・B・Cのそれぞれの状況と判断される生徒の実現状況の判断の目安とその具体例を作成し、それを踏まえた技能の評価を行う。また、Cと判断される生徒への手立ても併せて事前に作成する。

評価規準（技能）	体をもつに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。		
基本的な運動課題	実現状況	判断の目安	具体例（特徴的な動き）
滑らかさ	十分満足（A）	「 十分満足できる 」状況とは、 「おおむね満足できる状況（B）」と判断される状況の技能が十分に発揮され、さらに 一連の動きが途切れることなく、タイミングよくスムーズに回転している 。	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードに乗れている。 ・動きにメリハリがある。 ・大きな弧をつくって回転している。 ・手の平をしっかりとついてタイミングよく押し下り突き放したりしている。 ・足を大きく振り上げて回っている。
順次接触	おおむね満足（B）	体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や、回転力を高めるための動き方が見られ、一連の動きが途切れることなく回転している。	<ul style="list-style-type: none"> ・体を丸めて回転している。 ・ぎこちないが回転している。 ・不安定でも技の終末姿勢がとれる。
回転力	努力を要する（C）	「 努力を要する 」状況とは、 ・体をマットに順々に接触させて回転する動きのみ見られるが、 回転後座位で終了している 。 ・ 順次接触は見られない 。	<ul style="list-style-type: none"> ・勢いが足りなく戻ってしまう。 ・背中から落ちてしまう。 ・技が途切れている。 ・真っ直ぐ回れない。

「十分満足できる」状況（A）の生徒に対しては、個別に「より大きく」「安定して」等の発展的な課題を与えることよいですね。

【「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て（開脚前転の例）】

- 知識の習得状況を確認し、具体的な知識と汎用的な知識を結びつける指導を行うとともに、体をマットに順々に接触させるために「ゆりかご」などの感覚づくりの指導を行う。
- 体を小さく丸くして回れるようになったら、回転力を高めるために腰を大きく開いて回ること（大きなゆりかご）ができるように指導する。
- 背支持倒立から転がり立ち上がるなどして、順次接触と回転力の感覚づくりを行う。また、場の工夫として坂道などを作り、回転力が高まった時の手の着く位置や体を前傾する感覚をつかませる。

「努力を要する」状況（C）の生徒に対しては、つまずきを確認に見取り、その解消へ向けて適切に支援していくことが大事ですね

【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校保健体育）P67～68より作成】

「中学校保健体育科（保健分野）(1)健康な生活と疾病の予防「生活習慣病などの予防」における「思考・判断・表現」の評価の例
教師が示した資料を基に、「生活習慣病を予防するためにどのような行動をとればよいか」という発問に対して、グループで選択した生活習慣病の予防について、個人の考えやグループの考え、それらを踏まえた最終的な自分の考えを記入させ、ワークシートの記入内容及び、グループでの対話の過程を教師の観察により見取る。

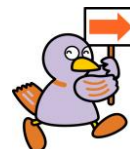
評価規準（思・判・表）	生活習慣病の予防における事柄や情報などについて、原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりし、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。
「おおむね満足できる」状況と判断する生徒の姿	「十分満足できる」状況と判断する生徒の姿
発言内容やワークシートの記入内容から、以下のような方法を個人の生活の状況に応じて選択している姿が見取ることができれば「おおむね満足できる」状況と判断する。 ○適度な運動を定期的に行うこと、 ○毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、 ○喫煙や過度の飲酒をしないこと、 ○口腔の衛生を保つことなどの具体的な生活習慣を身に付けることが有効であること、など	生活習慣病を予防するための適切な方法を選択する場面において、個人の生活と関連付けながら、科学的な根拠を示したり、具体例を挙げたりして、説明していれば、「十分満足できる」状況とする。 「努力を要する」状況と判断する生徒への手立て 生活習慣病を予防するための適切な方法を選択できるような、個別に次のような支援をする。 ・事例から読み取れる具体的内容を個別に説明する。 ・個人の生活を振り返らせたり、比べさせたりする。 ・具体的な生活場面を想起させる資料を示す。など

【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校保健体育）P97より】

引用・参考

- 「小学校学習指導要領」、「小学校学習指導要領解説 体育編」、
- 「中学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」
- 「埼玉県小学校教育課程・評価資料」
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

文部科学省
埼玉県教育委員会
国立教育政策研究所



「学びのR」はこちらからも御覧いただけます！

